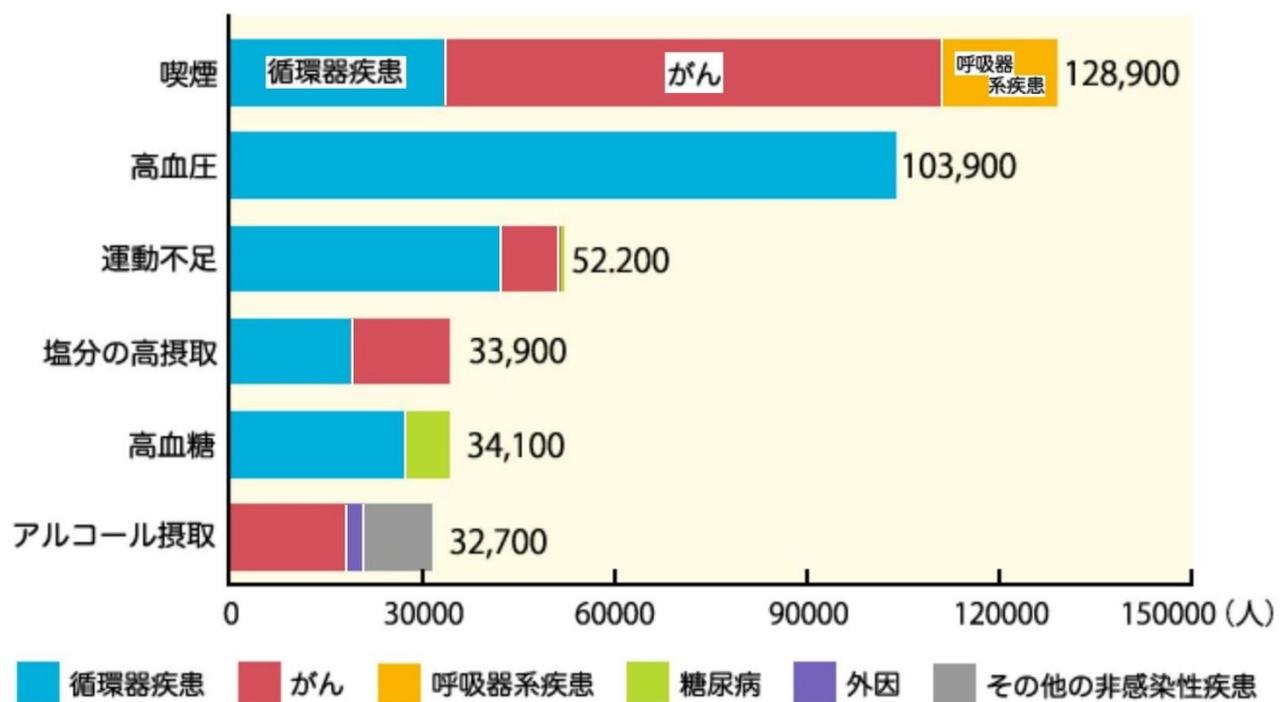


# 週刊 タバコの正体

他人のタバコの煙を吸わされる受動喫煙が原因の肺がんや心臓病などで死亡している人が全国で約6,800人もいる事を前回紹介しましたね。では、喫煙者本人がタバコのせいで亡くなる人はどれほどいるのでしょうか。

下のグラフを見てください。11年前のデータですが喫煙が原因で死亡した人は、12万8,900人もいます。ご覧のとおり、様々な要因のなかでも断トツの数字です。

## リスク要因別の関連死亡者数（平成19年）



健康ひょうご21県民運動  
ポータルサイトから

「健康日本21（第2次）の推進に関する参考資料」（平成24年7月）  
：厚生科学審議会地域保健健康増進栄養部会・次期国民健康づくり運動プラン策定専門委員会

12万人というと、どこかの市町村の人口に匹敵するぐらいの人数で、毎日、日本じゅうで350人がタバコのせいで亡くなっている計算になります。350人ものが犠牲になる事故が毎日発生していると考えれば異常事態ともいえる状況です。

ところが、世の中の多くの人はこの事実を知りません。というのも12万8,900人の人たちの死因は、タバコを吸い続けた事ではなく「循環器疾患」や「がん」や「呼吸器系疾患」だと発表されるからです。

これから大人になる君たちは、この事実をしっかりと認識しておいて下さい。タバコを吸う人をなくせば多くの命を救うことができるはずですよ。

産業デザイン科 奥田 恭久